

# LRQA独立保証声明書

## 京セラ株式会社の統合報告書 2023 及びサステナビリティ WEB サイトに掲載される 2022 年度のサステナビリティ活動に対する保証

この保証声明書は、契約に基づいて京セラ株式会社に対して作成されたものであり、報告書の読者を意図して作成されたものである。

### 保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA という）は、京セラ株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、統合報告書 2023 及びサステナビリティ WEB サイトに掲載される京セラグループの 2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）のサステナビリティ活動に関する開示情報（以下、報告書という）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3 タイプ 2 の保証を用いて、中程度の水準の保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外の連結対象子会社における運営及び活動<sup>1,2</sup>に対して、以下の要求事項を対象とする。

- AA1000 ACCOUNTABILITY PRINCIPLES 2018 への充足性の検証
- 以下の指標に関する会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の指標に関するデータの正確性及び信頼性の評価<sup>3</sup>

#### サステナビリティ関連情報開示

- サステナビリティ開示情報

#### 環境<sup>4</sup>

- スコープ 1 GHG 排出量 (tCO<sub>2</sub>e)<sup>5</sup>  
エネルギー起源 / 非エネルギー起源
- スコープ 2 GHG 排出量 (tCO<sub>2</sub>e)  
電気[マーケット基準] / 蒸気・温水
- スコープ 3 GHG 排出量(カテゴリー1)(tCO<sub>2</sub>e)
- 取水量(m<sup>3</sup>)  
市水取水量 / 地下水取水量 / 工業用取水量
- 排水量(m<sup>3</sup>)
- 産業廃棄物、有害廃棄物排出量(トン)
- VOC 排出量及び取扱量(トン)<sup>6</sup>

<sup>1</sup> スコープ1・スコープ2 GHG 排出量、水使用量及び排水量、産業廃棄物及び有害廃棄物排出量については、京セラ株式会社及び国内外グループ会社の 92 生産工場を対象とする。VOC 排出量及び取扱量については、京セラ株式会社及び国内グループ会社の 20 生産工場を対象とする。

<sup>2</sup> 休業災害度数率、業務上疾病度数率、死亡者数については、京セラ株式会社及び国内グループ会社の 5 社（京セラコミュニケーションシステム株式会社、京セラドキュメントソリューションズ株式会社、京セラ興産株式会社、京セラインダストリアルツールズ株式会社、京セラ SOC 株式会社）を対象とする。また、女性管理職比率は京セラ株式会社を報告対象範囲とする

<sup>3</sup> 統合報告書 2023 及びサステナビリティ WEB サイトにおいて✓を入れた項目について、保証業務を実施した。

<sup>4</sup> GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

<sup>5</sup> スコープ1 GHG 排出量は、非エネルギー起源の温室効果ガス排出量（CO<sub>2</sub>換算値）を含む。

<sup>6</sup> 対象となる VOC は、電機電子4 団体が定める VOC20 種類（イソプロピルアルコール、トルエン、アセトン、酢酸ブチル、メタノール、キシレン、メチルエチルケトン、ジクロロメタン、スチレン、エタノール、エチルベンゼン、テトラヒドロフラン、1-メトキシ-2-プロパノール、n-ブタノール、クロロホルム、メチルイソブチルケトン、n-ヘプタン、酢酸エチル、トリクロロエチレン、シクロヘキサノン）とする。

## 社会

- 休業災害度数率
- 業務上疾病度数率
- 死亡者数
- 女性管理職比率

LRQA の保証業務は会社のサプライヤー、業務委託先、及び報告書で言及される第三者に関するデータや情報は対象としていない。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

## LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- AA1000 アカウンタビリティ原則(2018)に準拠していない
- サステナビリティ関連情報及び環境・社会データに関して自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 正確で信用できるサステナビリティ関連情報及び環境・社会データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。この保証声明書で表明された検証意見は、中程度の水準の保証水準<sup>7</sup>、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

## 保証手続

LRQA の保証業務は、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3 のタイプ 2 に準拠して実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

### サステナビリティ関連情報開示

- 関係する全てのステークホルダーを把握していることを確認するため、会社のステークホルダーの特定および決定のプロセスを評価した。
- 報告書に重要な課題が網羅されていることを確認するため、会社のマテリアリティの特定および決定のプロセスを審査した。
- ステークホルダーが関心を持つ課題に関する対話が行われていることを確認するため、会社のステークホルダーエンゲージメント手続を評価した。
- 環境や社会に重要な影響を及ぼすサステナビリティのパフォーマンスを把握し開示していることを確認するため、会社の KPI 設定プロセスおよび情報開示の手法について検証した。
- サステナビリティへのコミットメントを確認するため、シニアマネジメントへのインタビューを行った。

### 環境・社会データ

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプリング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2022 年度の環境・社会データに関する記録および情報の検証を行った。
- 京セラ株式会社・滋賀蒲生工場及び滋賀八日市を訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、敷地範囲において主要設備と計測地点の現場確認を実施した。

<sup>7</sup> 中程度の水準の保証業務の証拠収集は、高程度の水準の保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、中程度の水準の保証業務で得られる保証水準は高程度の水準の保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

## 観察事項

保証業務における観察事項及び発見事項は以下のとおりである。

- 包摂性  
会社は、お客様、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会の 5 つのステークホルダーを重要視するマルチステークホルダーに対応する方針としており、トップマネジメントによりコミットメントの表明が行われている。会社の特定したステークホルダーから除外されている主要なステークホルダーグループは発見されなかった。
- 重要性  
会社は、サステナビリティに関連する社会課題に対応するため、経営レベルでサステナビリティについての取り組みを推進し、事業戦略に結びつけて対応している。会社の特定したマテリアリティは毎年見直しが行われており、サステナビリティに関連する社会課題について、除外されている重要な側面は発見されなかった。
- 対応性  
会社は、特定した 5 つのステークホルダーの関心を把握し、各々に個別に対応するプロセスを有している。会社の特定したステークホルダーに対して、エンゲージメントが行われていない状況は発見されなかった。今後、海外のステークホルダーへの対話のより一層の充実が期待される。
- インパクト  
会社は、サステナビリティのパフォーマンスに関する情報を収集し開示するためのシステムを確立している。会社は統合報告書と Web サイトを通じてサステナビリティに関する情報を開示しており、ステークホルダーの関心が高い情報については、第三者保証を受けて信頼性を確保している。

## 基準、適格性及び独立性

LRQAはISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部：要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAが組織に対して提供している業務はこの検証のみであり、そのため我々の独立性あるいは中立性が損なわれることはない。

署名

2023年7月14日



安本 潤

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F



AA1000  
Licensed Report  
000-11/V3-YFSRT

LRQA reference: YKA00001069



LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2023.